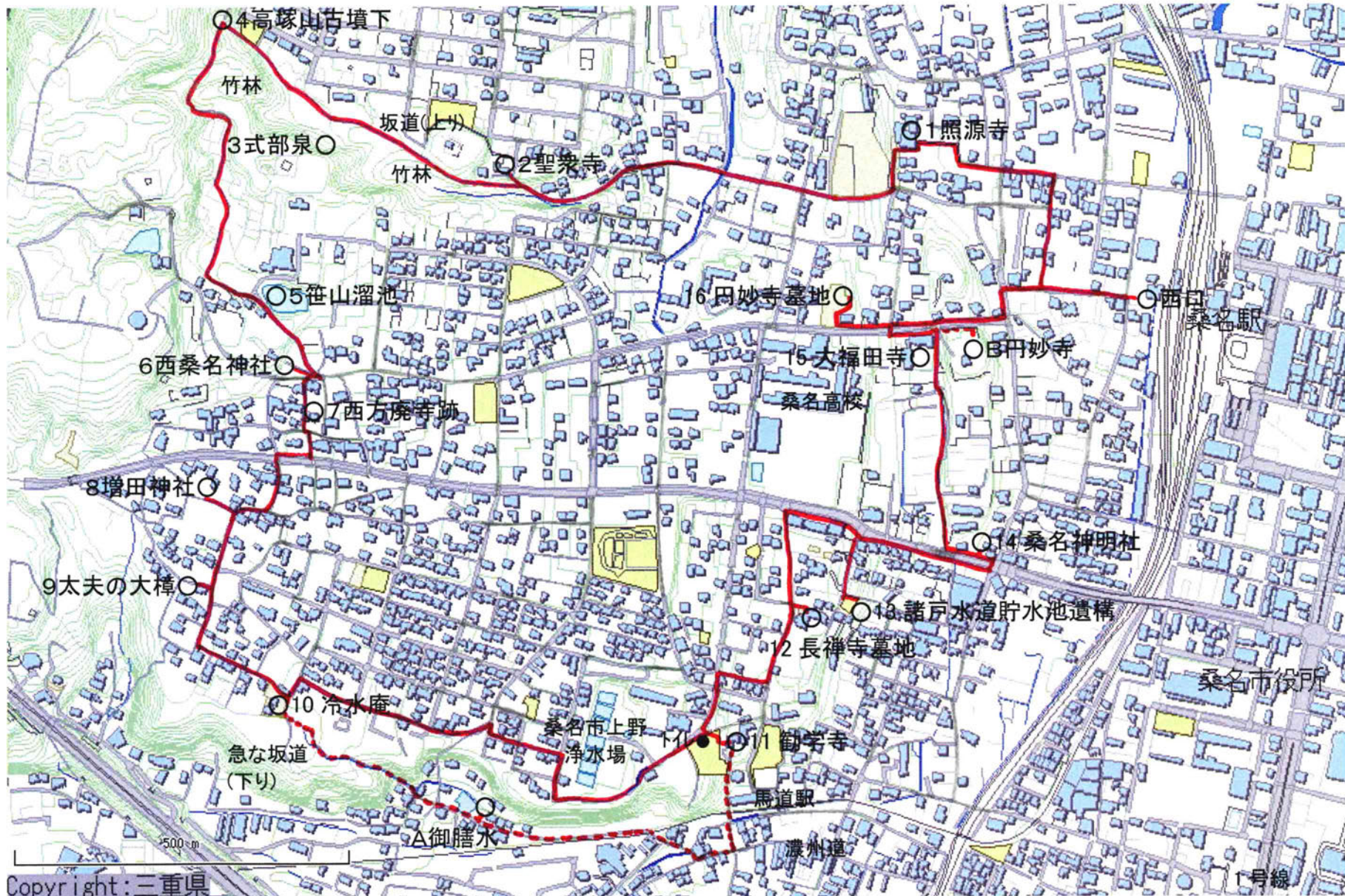


桑名いにしえ山の辺の道 (全行程約6 km)



1. 照源寺



浄土宗。寛永元年(1624)桑名藩主松平定勝が死去したため、その子の定行が創建。定行は伊予松山へ移封したが、その弟定綱が桑名藩主を継いだので、松平家の菩提寺として存続。墓地には松平定綱及び一統の墓所(県指定史跡)がある。境内には夫婦松(市指定天然記念物)があり、山門(市指定文化財)は創建当時のものと言われている。境内に楽翁歌碑、苦楽庵宗九(松尾流茶人)歌碑、深川照阿(幕末から明治にかけての連歌師)歌碑、平岡潤(桑名の詩人、画家、郷土史家)詩碑などがある。

2. 聖衆寺



真言宗。鎌倉時代初期の建仁4年(1204)の創建と伝える。43の僧坊を持つ巨刹であったが、織田信長の侵攻で焼失。のち江戸時代中期に僧信行が再興。信行は瓦師の出身で、瓦焼きの阿弥陀如来座像を作る。そのため「土仏さん」として親しまれている。この付近は江戸時代から景勝の地として知られ、行楽の地ともなっている。奥の院に秋葉堂がある。

3. 式部泉



聖衆寺の横から高塚山下までの小さな渓谷。和泉式部の硯の水ともいう。また山本式部なる武士が住んでおり、織田信長勢に攻められて討ち死にし、その首を洗った泉ともいう。

4. 高塚山古墳下



右手山上にある高塚山古墳は全長約56mの桑員地区最大の前方後円墳。平成16年の調査で盾型や朝顔型、円筒埴輪、籠の文様のついた土師器がたくさん発見され、築造時期は4世紀後半の古墳と推定される。古墳は個人の敷地内にあるため立ち入り出来ない。

5. 笹山溜池



農業用水の溜池。戦後北側の斜面に古代の窯跡が見つかった。平成17年、池の半分を埋め立てるため調査を行ったところ新たに瓦窯3基が見つかり、西方廃寺跡から発見される瓦と同じ文様の瓦が焼かれていたことが分かった。

6. 西桑名神社



戦国時代この神社の奥の山上にあった西方城主の加藤勘助が八幡宮として祀っていたとされる神社で、昭和初期に西桑名神社と改称された。

7. 西方廃寺跡



元は海善寺と称し曹洞宗に属す。天平12年(740)聖武天皇行幸の際に建立されたと伝えられる巨刹であったが織田信長の兵火で焼失し以後再興されなかった。付近の畑から古代瓦が出土しているが、集落の中であり発掘調査はおこなわれておらず建造物跡など明確な位置は特定されていない。

8. 増田神社



もとはこの丘陵下方(桑名高校西北)にあった立坂神社の末社で、太夫村氏神の八幡社境内の別宮であった。明治末の神社合併令により隣村の神社に八幡社と共に遷されることになり、神楽職達(当時12家)は非常に困惑し、代表者の山本源太夫家敷地内山祇社と併設した。当社に伝わる伊勢太神楽(国指定重要民俗文化財)は、現在も伊勢大神楽講社を神社に置き、所属6家が毎年12月24日に奉納し、元旦より各地各家を巡歴し、清め祓いを行い、神楽を奏している。

9. 太夫の大樟(市指定天然記念物)



この地はもともと太夫村氏神の八幡社の境内の一部であり、太夫の大樟は一説に北勢の六本樟の1本と称されている。天正年間(1573~92)に三河の武士が樟に隠れて一命をとりとめた。のち、その樟が枯れたので、その母親がお礼に植えたのが現在の樟と伝えられる。幹周りは地上約60cmのところでは10.8m、樹高約27m、樹齢は約400年。

10. 冷水庵



曹洞宗。本尊虚空蔵菩薩。開基は不詳であるが、元禄年間(1688~1704)に海蔵寺三世の剣嶺(けんれい)和尚の法弟愚白禅師が再興。境内墓地に亀趺(きふ)と呼ばれる台石が亀の形をした墓がある。桑名藩の藩校進脩館(しんしゅうかん)の副校長であった阿波徳島出身の佐父理希亮(まれすけ)の墓で、異郷の桑名で死んだのを悼み、妻の柔が自分の化粧道具を売って建てたといわれる。傍らに柔の墓「佐分利君妻正木氏墓」もある。

11. 勸学寺



真言宗。走井山観音と呼ばれる。本尊千手観音立像(県指定文化財)は平安時代の樟一木造り。桑名藩主松平定重が本堂を再建。市内に現存する寺社建築としては最も古いと推定される。境内に仏足石(市指定文化財)や庚申碑がある。またこの地は伊勢湾全体から鈴鹿山脈を見渡せる絶好の場所であり、中世には矢田半右衛門俊元が居城した矢田城と呼ばれる当地方の中心的な山城であったが、永禄年間(1558~70)に織田信長勢によって滅ぼされ、滝川一益の長島一向一揆攻略の前線基地となった。今でも櫓跡や階段状の平坦地、空堀などの遺構が確認できる。梶島一藻(桑名の俳誌「かいつむり」主宰)句碑がある。

12. 長禅寺墓地



墓地に宝暦治水の薩摩義士和田善助の墓がある。

長禅寺は、古くは長島上坂手にあったが、三大河川改修工事により、明治中期に現在地に移った。曹洞宗。また門前に寿仙松枝米樂句碑がある。

13. 諸戸水道貯水池遺構(市指定史跡)



桑名は海岸に近く、良い水に恵まれないので、桑名町の富豪諸戸清六は独力で上水道敷設を計画し、東方丘陵の地下水を集めた貯水池を築き、町内に上水道を普及させた。この水道は明治37年(1904)に竣工し、町中に55の共用水栓を設け、町民に無料開放された。近代的な水道施設としては全国で7番目のもの。大正13年(1924)全施設は桑名町に寄付され、昭和4年(1929)まで使用された。



14. 桑名神明社

三崎新田の氏神で文化11年(1814)勧請。祭神は天照大神。この辺りは本郷と呼ばれ、桑名城下の三崎新田に人々が住み着き形成された集落である。三崎新田は明治8年(1875)桑名村と改称したので桑名神明社と呼ばれる。伏見稲荷社、八天宮などを末社として祀り、力石(力比への石)がある。



15. 大福田寺

真言宗。聖徳太子創建とも伝えられ、古くは伊勢山田にあったと伝えられる。室町時代後期の文亀3年(1503)に桑名の大福村に移されたが、低湿地で度重なる浸水のため寛文2年(1662)現在地に移転された。山門は江戸時代建立、現本堂は明治22年(1889)再建。本堂脇に聖天堂があり、秘仏である大聖歡喜天を祀る。寺宝に鎌倉時代の「釈迦八相成道図」ほか3点の重要文化財を蔵する(現在は奈良国立博物館に保管委託)。本尊の阿弥陀如来立像(県指定文化財)は引阿弥陀如来とも呼ばれ文亀3年の作。毎年4月1日～2日には桑名聖天火渡り祭があり、伊勢太神楽が奉納される。また8月20日には引阿弥陀会式が行われる。



16. 円妙寺墓地

円妙寺境内とはやや離れて立地する。「松平定良公霊廟附養仙院墓」(市指定史跡)がある。養仙院は定良の次の藩主松平定重の母で丹後宮津藩主京極高広の娘。宝暦年間の火災以前の円妙寺はこの墓地の麓にあった。



A. 御膳水

上野の山腹から湧き出る地下水を集めて上野溜池の傍らに導水している。桑名藩主の飲料水として、毎日城まで運ばれたのでこの名が付いた。現在でも清涼な湧水が流れ出しており、付近の人たちに利用されている。



B. 円妙寺

日蓮宗。桑名藩主松平定良が明暦3年(1657)に没した時に、菩提寺として建立。宝暦年間(1751～64)に火災を受け、奥州白河へ移る。その後文政6年(1823)松平家再封の際に桑名に戻り、現在地に再建。江戸時代の山門の他は戦災で焼失。現本堂は昭和47年(1972)に再建。